

**報道ご関係 各位**

«同時資料提供»

大阪経済記者クラブ  
大阪府政記者会  
大阪市政記者クラブ

大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 文化課  
大阪市 経済戦略局 文化部 文化課  
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

**令和元年度大阪文化祭賞受賞者の決定ご案内**

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で56回目の開催となります。

このたび、令和元年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

なお、贈呈式については、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、開催しません。

**令和元年度大阪文化祭賞 受賞者**

**大阪文化祭賞**

- ・仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段 出演者ご一同  
「11月文楽公演」の成果
- ・南河内万歳一座  
「～21世紀様行～唇に聴いてみる」の舞台成果
- ・K★バレエスタジオ  
「33回メモリアルコンサート」の成果

**大阪文化祭奨励賞**

- ・山村若・山村侃  
「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会『竹生島』」の成果
- ・尺八古典本曲断片ご一同  
「尺八古典本曲断片 其の玖 三谷・菅垣 式」の成果
- ・五代目 旭堂小南陵  
連続講演千鳥亭における「姫妃のお百」の舞台成果
- ・古瀬まきを  
「古瀬まきを ソプラノリサイタル～La voix humaine～」の成果
- ・アンサンブル九条山  
アンサンブル九条山コンサート vol.7「セレクションズ」の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞20万円、大阪文化祭奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。  
※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

## 《各受賞者の受賞理由・略歴》

### 大阪文化祭賞 3件

#### 仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段 出演者ご一同 「11月文楽公演」の成果

(かなでほんちゆうしんぐら くだんめ やましなかんきよのだん しゅつえんしゃごいちどう/「じゅういちがつぶんらくこうえん」のせいにか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

国立文楽劇場文楽公演は今年度、三回に分けて、「仮名手本忠臣蔵」の通しを上演した。文楽の物語性に興味を与えて、これまでさほどなじみのなかった観客をも大いに引き付けて大入り、大成功を得た。企画の勝利ともいえるが、それをみごとに演じ切った技芸員の努力が称えられよう。全段の中で特に際立ったのが、九段目「山科閑居の段」であった。義理の娘小浪(人形は吉田一輔)を連れて山科の大星の詫住まいに来て、お石(吉田勘彌)と対峙する戸無瀬(吉田和生)、娘の婚姻のために婿力弥(吉田玉佳)にわざと討たれて命を断つ本蔵(桐竹勘十郎)、その本心を見抜く由良助(吉田玉男)らの人形遣いの活躍はみごと。そして床では貫録をみせはじめた竹本千歳太夫(三味線は豊澤富助)、豊竹藤太夫(三味線は鶴澤藤蔵)が親子の情を感動的に語った。なお、今回三分割の通しながら藤太夫は「花籠の段」、七段目掛合の平右衛門も担当して、通し狂言の上演に貢献した。



#### 【略歴】

人形浄瑠璃文楽座は、あやつり芝居・現在は「人形浄瑠璃」と呼ばれる、太夫・三味線・人形からなる芸能のうち、江戸時代に竹本義太夫が大坂で創設した竹本座が発祥で、その後いくつもの後継一座が盛衰を繰り返した末、唯一残った「文楽座」の流れを汲む団体である。文楽は人形浄瑠璃の代名詞とされるが、実際は文楽座座員により上演されるものが今日、文楽と呼ばれる芸能である。人形浄瑠璃文楽は、その芸術性の高さが世界に認められている。座員は現在、太夫19名、三味線21名、人形42名、計82名で構成され、全員が公益財団法人文楽協会と契約を結び、文楽協会主催の公演の他、日本芸術文化振興会主催の大阪・東京の公演に参加し、文楽の継承・普及に努めている。昭和30年 国の重要無形文化財に指定。ユネスコにより、平成15年「人類の口承及び無形遺産に関する傑作」として宣言。平成20年「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載。

## 南河内万歳一座

### 「～21世紀様行～唇に聴いてみる」の舞台成果

(みなみかわちばんざいいちざ/「～にじゅういつせいきさまいさ～くちびるにきいてみる」のぶたいせいりか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

1980年に旗揚げした南河内万歳一座が、創立40周年のカウントダウン企画として、初期の代表作「唇に聴いてみる」(84年初演)を、「～21世紀様行～」の副題をつけて上演した。劇団としては実に23年ぶりの再演である。マンモス団地に住む青年が窓から不審火を発見したことから、時空を超える物語が展開していく。俳優の身体と装置を駆使し、六畳の部屋を西部劇の荒野や学校の運動場に変えさせる演出はダイナミック。ベテランから若手までの劇団員とオーディションメンバーが一つになって挑んだ舞台は、生の演劇にしか表現し得ない躍動感と楽しさを伝えた。地域コミュニティの変貌、都市に暮らす若者の孤独と焦燥感など、描かれたテーマは決して古びてはならず、新鮮に受け止めた観客も多い。旗揚げ以来、一貫して大阪の地から拠点を移すことなく全国にその名を知らしめ、関西小劇場界を牽引してきた同劇団の底力と、若い才能や演劇ファンを育ててきた功績を改めてたたえたい。



©谷古宇正彦



©谷古宇正彦

#### 【略歴】

昭和55年10月、大阪芸術大学(舞台芸術学科)の有志により結成。『蛇姫様』(作・唐十郎)で旗揚げ公演を行い、第2回公演以降は、座長・内藤裕敬のオリジナル作品を上演している。昭和60年、扇町ミュージアムスクエアオープン時から、同劇場2階に稽古場を構え、拠点とし、大阪、名古屋、東京の3都市公演を実施。また、韓国公演(昭和62年、63年)中国公演(平成7年)や、複数劇団を集めての野外合同テント公演(昭和61年、平成3年、平成5年)などを行い、関西小劇場を代表する劇団として、関西演劇シーンを牽引してきた。新しいスタイルや表現、作品の発表だけでなく、「劇団」という共通の演劇論、志を持つ集団において作品を作り続ける活動を模索している。すべてが東京一極集中の中、大阪の地で「劇団」にこだわって活動し、今年、劇団創立40周年を迎えた。第65回文化庁芸術祭・優秀賞受賞(平成22年度「ラブレター」作・演出 内藤裕敬)

## K★バレエスタジオ

### 「33回メモリアルコンサート」の成果

(けいばれえすたじお/「さんじゅうさんかいめもりあるこんさーと」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

山本隆之(紫綬褒章受賞者)、福岡雄大ら新国立劇場バレエ団プリンシパルはじめ多くの優秀なダンサーを育てた指導者で、数々の名作を遺した振付家、そして素晴らしいダンサーだった矢上恵子(2019年3月30日に他界)の追悼コンサート。そのPart.3が圧巻だった。

『Home』は故人の甥、福田圭吾振付。「サザエさん」を連想させる家族の風景をコミカルに描きつつ、祖父母世代の戦争体験にも触れる。抜群のダンス・センスは矢上譲りだ。矢上の代表作の一つ『Cheminer』では、かつての彼女のパートを山本が踊った。動きは研ぎ澄まされていて、宙に伸ばす腕、蹴り出す脚、身体のすべてからドラマを感じさせた。矢上の振付は、ダンサーの身体に隙をつくらず、緻密に動きを構築する。観客はスピード感あふれるダンスの迫りに圧倒されながら、心に訴えかけてくる何かを感じる。矢上は大阪が生んだ偉大な舞踊家。この公演は、それをあらためて確信させた。



©岡村昌夫(テス大阪)



©岡村昌夫(テス大阪)

#### 【略歴】

貝谷八百子バレエ団を経た矢上香織・久留美・恵子の三姉妹で'83年に設立。'88年にはコンテンポラリーの振付家である恵子を中心としたK★CHAMBER COMPANYを結成。東京・韓国等でも上演を続けパニョレ国際振付賞推薦会にも出展した。またヴァルナやローザンヌ等の国際コンクールでも恵子のコンテンポラリー作品が多数踊られ、数多くの受賞者を輩出する。三姉妹が育てたスタジオ出身者には山本隆之(紫綬褒章受賞)や新国立劇場バレエ団の福岡雄大、福田圭吾・紘也を始めとする数々のダンサーがおり、各バレエ団で活躍している。現在は香織・恵子が故人となり久留美の指導の下、恵子の振付を習得したアシスタントたちによってコンテンポラリー作品の上演が続けられている。K★BALLET STUDIO CONCERTの開催は'86年より毎年続けている。

## 大阪文化祭奨励賞 5件

### 山村若・山村侃

#### 新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会「竹生島」の成果

(やまむらわか・やまむらかん/しんしんとはながたによるぶよう・ほうがくかんしょうかい「ちくぶしま」のせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

上方舞山村流の山村若、山村侃は、国立文楽劇場の「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」で地歌舞「竹生島」を披露、端正で折り目正しい所作に品格を醸し出し、兄弟の息の合った舞は、二人立ちの舞踊のおもしろさを見せてくれるものであった。おおらかで伸びやかな舞台は将来性を感じさせ、大阪の文化を担う上方舞山村流の次代を背負って立つ逸材として奨励賞を贈呈したい。

#### 【略歴】

山村若 (やまむら わか)

山村流宗家の長男として生まれる。平成五年七月 父の六世宗家山村若襲名披露舞踊会にて初舞台。平成二十六年父の三代目 山村友五郎襲名と共に、四代目山村若を襲名し宗家嗣となる。同年、三日間に亘り襲名披露舞扇会を開催。山村流一門の会『舞扇会』に毎年出演する他父の補佐、後見等を務め斯道に修行中。

山村侃 (やまむら かん)

山村流宗家の次男として生まれる。父の六世宗家山村若襲名披露舞踊会にて初舞台。平成二十六年に若を継いだ兄と共に、大阪発祥の日本舞踊上方舞山村流を次代に繋げる為に力を尽くしている。山村流宗家一門の会『舞扇会』に毎年出演する他、後見等を務め修行を続けている。



©国立文楽劇場

### 尺八古典本曲断片ご一同

#### 「尺八古典本曲断片 其の玖 三谷・菅垣 式」の成果

(しゃくはちこてんほんきょくだんぺんごいちどう/「しゃくはちこてんほんきょくだんぺん そのきゅう さんや・すががき」のせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

関西在住の尺八奏者、川崎貴久、小林鈴純、谷保範、國見政之輔の4人が流派をこえ集う演奏会。毎回テーマを設定し尺八の古典本曲を様々な角度から取り上げている。充実した演奏はもちろん、研究・解釈面にもじっくり取り組み、回を重ねていることは聴く側にも意義深い。大阪を舞台に四者四様の個性豊かな演奏で活動を続ける「断片」の更なる飛躍を期待し、贈賞したい。



【略歴】会派を異する四人の尺八家、國見政之輔・谷保範・小林鈴純・川崎貴久で結成。全国各地に伝わった虚無僧の音曲「尺八本曲」について、演奏会毎に曲種などのテーマを定めている。平山泉心の司会にて各奏者の伝承経路の違いを大切にしながら「わかりやすく」を心掛け、解説と共に演奏と続けている。

## 五代目 旭堂小南陵

### 連続講談千鳥亭における「姫妃のお百」の舞台成果

(ごだいめ きよくどうこなんりょう/れんぞくこうだんちどりていにおける「だっきのおひやく」のぶたいせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

講談師の五代目旭堂小南陵が旭堂南龍と「此花千鳥亭」で7日間連続の「続き読み」の会を開催。悪女を描いた「姫己のお百」を情感深く語った。「講談師の拠点を」と小南陵が尽力し、2019年1月に大阪・此花区にこの小屋を開場させたことで、講談会だけでなく落語会も大幅に増え、挑戦の幅も広がった。演芸界への功績もあわせて評価したい。



【略歴】OL・俳優を経て平成13年7月旭堂小南陵(現・四代目 旭堂南陵)に入門、講談師として活動を開始する。古典講談はもちろん、新作創作講談にも精力的に挑み、平成27年第70回文化庁芸術祭新人賞受賞。平成28年八尾市文化新人賞受賞、平成28年11月、五代目 旭堂小南陵を襲名する。

平成31年1月、講談の拠点となる場所をつくりたいと、大阪市此花区に「此花 千鳥亭」をDIYでオープンさせる。

## 古瀬まきを

### 「古瀬まきを ソプラノリサイタル～La voix humaine～」の成果

(ふるせまきを/ふるせまきを そぶらのりさいたる～らう`おわゆめーぬ～)のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

ブランクの「人間の声」を中心としたリサイタルにおいて優れた歌唱と演技で観客を魅了した。難解な音型を歌いこなし、発音も的確。ホールの響きを生かした発声も、優れていた。演技でも、聴衆を緊迫する物語の世界に引き込んだ。ピアニスト遠藤玲子の演奏も、歌と見事に協働していたことも付け加えておきたい。今後のさらに充実した活動に期待を込め、顕彰したい。



©Takashi Matsuura

【略歴】相愛大学卒業、京都市立芸術大学大学院修了。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修員。第15回松方ホール音楽賞、平成25年度奏楽堂日本歌曲コンクール第1位他多数受賞。各地で多数のオペラに出演。平成28年度尼崎市民芸術奨励賞。第40回音楽クリティック・クラブ賞奨励賞。

## アンサンブル九条山

### アンサンブル九条山コンサート vol.7 「セレクションズ」の成果

あんさんぶるくじょうやま/あんさんぶるくじょうやまコンサートぼりゅーむせぶん「せれくしょんず」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

アンサンブル九条山は2010年の設立以降、大家から若手に至るまで、多様な現代音楽作品を紹介してきた。本公演はその活動の集大成とも言え、これまでに演奏した作品の中から6曲を厳選。徹底した演奏解釈と高度な技術、豊かな音楽性に加え、工夫を凝らした演目内容により、多くの人々に現代音楽の魅力を伝えた。その功績を高く評価したい。



【略歴】2010年ヴィラ九条山レジデント作曲家により結成。2015年以來、演奏家自身による企画を展開する現代音楽アンサンブル。国内外でキャリアを積み、ソリストとしても活動する現代音楽のスペシャリスト達で構成されている。2019年(令和元年)音楽クリティック・クラブ賞奨励賞受賞。

#### …大阪文化祭賞とは…

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を審査し、大阪文化祭賞、大阪文化祭奨励賞を選考します。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際はE-mailでお送りいたしますので、下記事務局まで電話またはE-mailにてご連絡ください。

#### ■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 北野

e-mail / kitanoy@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945